

## 菜種苗根腐病に関する研究 (第2報)

宇都敏夫\*・肥後三郎\*

Uto, T., and Higo, S. Root Rot of Rape Seedling. (II)

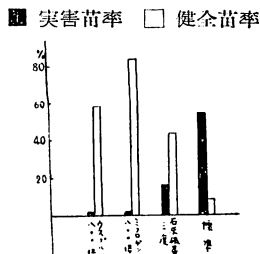
室内実験に於て、菌叢阻止円及び浸漬試験を常法によつて行い、ミクロジン乳剤及びウスプルン等の水銀剤が最も効果が優り、これについて石灰硫黄合剤の効果が認められた。よつて圃場に於て応用的に之等の薬

\* 鹿兒島縣農業試験場鹿屋分場

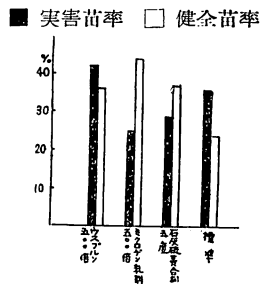
剤を用いて、有効な処理時期の検定を行つたので、その概要を報告し参考に供したい。

1. 播種前処理試験成績 播種5日前、土壤を反転しつつ、坪当3升を撒布し、農林14号を0.3×0.3尺点播、後間引して2本とす。1区1½坪、3連制とし調

第 1 図 播種前処理試験成績



第 2 図 播種前後処理試験成績



3. 播種後処理時期試験成績

倍液を用い、播種 10 日、20 日、30 日後を基として、

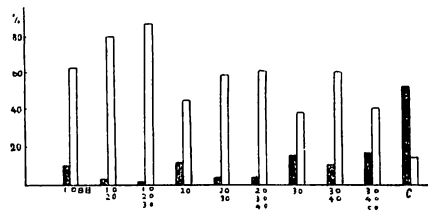
査は、60 日目に抜き取り、発病程度別に発病苗率を求めて比較した。その中で、移植後生育障害となると思われるものを実害苗とし、その率を示したものが第 1 図である。

2. 播種前後処理試験成績 播種 5 日前及び播種 10 日後の 2 回処理を行った。播種後は苗上より如露にて反当 3 升宛灌注した。前記同様に調査した結果を示すと第 2 図の如くである。

マイクロゲン乳剤 1000

第 3 図 播種後処理時期試験成績

■ 実害苗率 □ 健全苗率



10 日隔に 1 回より 3 回返灌注する区を設けて、試験した結果を示すと、第 3 図の如くである。

4. 考察 第 1 図で見ると、播種前の土壌処理 1 回のみでは効果が少く、実用的でない。第 2 図に示した如く、苗床の土壌処理と、更に 1 回株元に灌注すると、顕著な効果が認められる。亦播種後に於ては、第 3 図に示した如く早い時期より始める程有効な結果が得られている。以上の点からして、播種前の土壌処理は面倒であるので播種後 30 日目位迄の期間に 2~3 回灌注する方法が、実用的であると思われる。供試薬剤中ウスプルンは葉害を認めなかつたが、マイクロゲン乳剤は多少葉害を生ずるのでその濃度については今後検討したい。